

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

兎年の今年はどんな年になるのでしょうか。昨年来からの経済環境、社会環境を踏まえ、期待や希望が持てる話題があまりないので心配になります。

財政赤字は総額で900兆円に近づき、GDP（国内総生産）は中国に抜かれ、新卒の就職率が6割に至らず等、暗い話題ばかりが目につき、かつての経済大国は坂道を転がり落ちている状況と言えましょう。現政権の低迷は目を覆うばかりで、些末なこと（政治家の失言問題や政倫審出席問題等）に政治の時間が使われ、膨大な無駄なコストがかさんでいる実状に落胆と失望を感じているのは私だけではないと思います。そのうえ、社会的な事件として、検察が証拠をねつ造した郵便不正事件、取手駅で起きたバスの中での無差別殺傷事件等を見ますと、現代人は人としての自制機能も失いつつあると思えてなりません。また、自殺者も何年にわたって3万人を越え、年配者の孤独死もどんどん増えています。

新年早々のご挨拶にもかかわらず、大変な状況に来ていると思います。

やはり、我々一人ひとりが何かをしなければならない時が来ていると思います。次世代の日本の若者、子供達のために、（誰かがやるだろうと）人に任せるのではなく、我々一人ひとりができることから実際に行動しなければならない瀬戸際に来ているのではないのでしょうか。

弊社は会員の皆様の失効ポイント（有効期限が切れたポイント）を様々な地域に寄付をしています。今年はそのひとつとして、北海道旭川市の隣町、鷹栖町の皆様とご一緒に、「鷹栖町こども図書館」の設立（春頃）に取り組みます。失効ポイントでこども達の図書が増えれば嬉しい限りです。

昨年、旭川という街である本のことを知りました。それは「アイヌ神謡集」という本で、作者は「知里幸恵（ちりゆきえ）」というアイヌの少女でした。今から約89年前に13のユーカラ（口承の叙事詩）を纏めて、19歳で夭折した少女がいたのです。皆さんもご存知の通り、当時のアイヌの人々は大変な時代の中にいました。本土から来た日本人（和人）が徹底的に搾取を行い、土着民として虐げられ、非人間的な扱いをされるという悲惨な状況にあったのです。当時の政府は、アイヌの狩猟権、漁業権を奪い、アイヌは下劣な人種として、同化政策を実施して、「和人」として生きることを強いたのです。そういう時代に生きた知里幸恵が書いた本が「アイヌ神謡集」であり、ちょっと長くなりますが、その冒頭の一文を引用します。

その昔この広い北海道は、私たち先祖の自由の天地でありました。天真爛漫な稚児の様に、美しい大自然に抱擁されてのんびりと楽しく生活していた彼等は、眞に自然

の寵児、なんという幸福な人だちであつたでしょう。

冬の陸には林野をおおう深雪を蹴って、天地を凍らす寒気を物ともせず、山又山をふみ越えて熊を狩り、夏の海には涼風泳ぐみどりの波、白い鷗の歌を友に木の葉の様な小舟を浮べてひねもす魚を漁り、花咲く春は軟らかな陽の光を浴びて、永久に囀（さえ）ずる小鳥と共に歌い暮して蒨（ふき）を取り蓬（よもぎ）摘み、紅葉の秋は野分に穂揃うすすきをわけて、宵まで鮭とる篝（かがり）も消え、谷間に友呼ぶ鹿の音を外に、圓（まど）かな月に夢を結ぶ。ああ、何といふ楽しい生活でしょう。平和の境、それも今は昔、夢は破れて幾十年、この地は急速な変転をなし、山野は村に、村は町にと次第々々に開けてゆく。

太古ながらの自然の姿も何時の間にか影薄れて、野辺に山辺に嬉々として暮していた多くの民の行方も又いずこ。僅かに残る私たち同族は、進みゆく世のさまにただ驚きの眼をみはるばかり。しかもその眼からは一挙一動宗教的感念に支配されていた昔の人の美しい魂の輝きは失はれて、不安に充ち不平に燃え、鈍りくらんで行手も見わかず、よその御慈悲にすがらねばならぬ、あさましい姿、おお亡びゆくもの……それは今の私たちの名、何という悲しい名前を持っているのでしょうか。

その昔、幸福な私たちの先祖は、自分のこの郷土が末にこうした惨めなありさまに変わろうなどとは、露ほどにも想像し得なかったのでありましょう。

時は絶えず流れる、世は限りなく進展してゆく。激しい競争場裡に敗残の醜をさらしている今の私たちの中からも、いつかは、二人三人でも強いものが出て来たら、進みゆく世と歩をならべる日も、やがては来ましょう。それはほんとうに私たちの切なる望み、明暮（あけくれ）祈っている事で御座います。（岩波文庫から引用）

なんという文章なのでしょう。アイヌ民族の誇り、大地や自然に対する深い思い、「人の幸せとは何か」を若干19歳にして明確に悟っている卓越した洞察に言葉を失う限りです。現代の日本人は、何十年にもわたって経済競争に明け暮れ、その結果、やれ環境問題とかやれ自然保護とかと騒ぎ、「進化していたと思っていた現代社会の脆弱さ」を目の当りにして、初めてこのままでいいのだろうか、という疑問を持ち始めているのです。

「心豊かな幸せな生活」が何であるかを、幸恵はとっくの昔に見通していたのです。

長い時間軸から俯瞰すると、現代日本がアイヌ社会と同様な歴史をたどるかどうかは、まさに我々一人ひとりの現在の生き方に係わっていると言えるのかも知れません。

サイモンズは今年も持続可能な社会インフラの構築に向けて、一つひとつ実践して参ります。実践あるのみです。

引き続き、皆様方の温かいご愛顧をお願い申し上げます。

平成23年1月4日

株式会社サイモンズ
代表取締役社長
斉川 満

